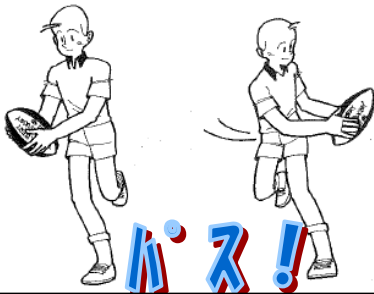




タックルをタッチに置き換えた、より安全で親しみやすいラグビー

タッチラグビー



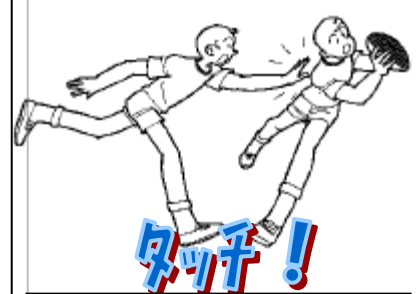
パス!

自分より後ろの位置にいる味方にパスをします



キャッチ!

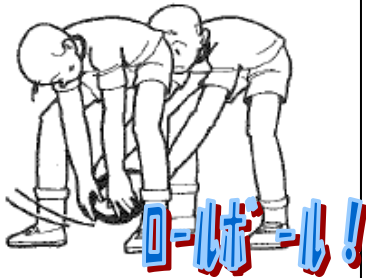
しっかりボールを見て、手を引きながらキャッチします。



タッチ!

最小限の力でボールを保持している選手にタッチします。

「身体」のふれあいから「心」のふれあいへ



ボール!

タッチをされた人はボールをまたの下に置き、味方のハーフがそれを拾います。



5m!

タッチをしたら、ディフェンスは全員で5m下がります。



トライ!

ゴールラインを越えて地面にボールを置くトライ! 得点が入ります。

歴史と沿革

1960年代にオーストラリアで始まったとされ、日本には1988年に口元周策氏(現・ジャパンタッチ協会代表理事)によって紹介されました。1989年12月には日本タッチ協会が設立されています。オーストラリアやニュージーランドでは「タッチ」、「タッチフットボール」という名称が一般的ですが、日本では「タッチラグビー」と呼ばれています。



競技方法

1チームは14人以内。グラウンドでのプレイヤーは6人で、いつでも自由に交代ができます。タックルやスクラムではなく、パス主体のゲームです。

コイントスを行い、勝ったチームからの攻撃でゲームが始まります。攻撃側はまず、グラウンド中央でボールをタップ(*1)してから、後方へのパスやランニングを組み合わせるボールを進め、相手のトライエリアへのタッチダウンを目指します。



守備側はボールの進行を止めるため、ボールキャリアーの身体へのタッチ(*2)を試みます。タッチが発生した場合は、ボールキャリアーはその場でロールボール(*3)を行い、プレーを再開します。守備側は、ロールボール地点から 5m バックしなければなりません。攻撃側が 6 回タッチを受けると、攻撃権が相手側に移動し、攻守交代となります。また、インターセプトして攻撃に転ずることもあります。

(*1)タップ : ボールを地面に置いて、軽く足で蹴り(通常 30cm 以内位)、手でボールを拾い上げる一連の動作のこと。

(*2)タッチ : 両手、または片手でも可。

(*3)ロールボール : ボールを両足の間から後ろに転がすプレー。身体の横で転がすのは反則。

ルール

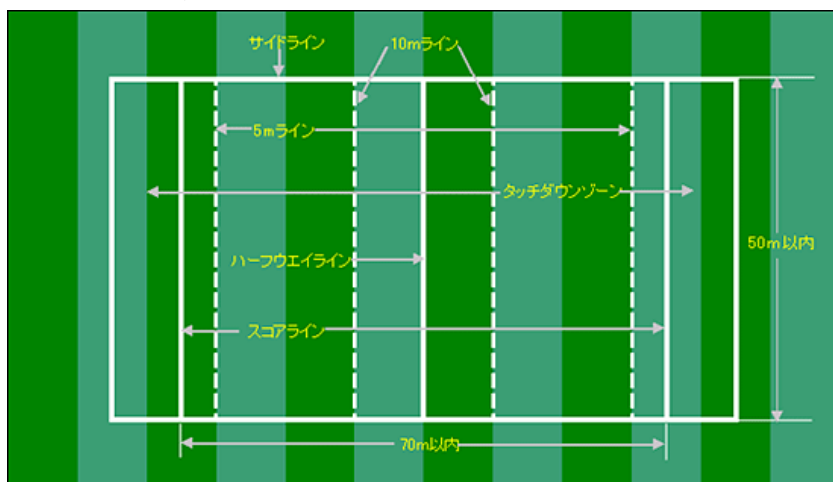
主なルールには以下のようなものがあります。

- ・ フォワードパス : 前方にパスを投げること。
- ・ ボールトゥグラウンド : ボールを地面に落とすこと。
- ・ オフザマーク : タッチされた場所とは違う場所でロールボールを行う
- ・ オフサイド : タッチの後、守備側の全プレイヤーはタッチの位置から 5m 後退しなければならないが、後退せずに再びタッチすること。



コート

幅 30~50m、長さ 50~70m の長方形。



ボール

通常のラグビーボールより、一回り小さい。
タッチラグビーボールを使用する。



一般財団法人 ジャパンタッチ協会: 渡部・内川
〒100-6331 東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸の内ビルディング 31F
TEL: 03-6695-6231 FAX: 03-6212-5287
<http://www.japantouch.jp/>